

「要介護」の患者さまを 作らない、脊椎脊髄疾患の 予防と低侵襲医療

腰、首の痛み、障害に悩む方に

要介護や、寝たきり、原因に脊椎脊髄疾患が

厚生労働省の報告によると、要介護と要支援認定を受けている人は、現在634万3千人に及びます。要介護と聞くと、脳卒中の後遺症や認知症を思い浮かべる方が多いと思いますが、実は原因の約30%を運動器(骨や関節、筋肉など)を動かす器(骨)の障害が占めています。その代表が腰部脊柱管狭窄症、変形性膝関節症、骨粗しょう症を基礎疾患とする椎体骨折や大腿骨頸部骨折です。

近年、運動器の衰えを示す「ロコモティブシンドローム」という概念が定着してきました。その予防に最も確実なのは「歩くこと」です。60代を境に脚の筋力は急速に低下しますから、社会活動や趣味などに積極的に取り組み、大いに出歩きましょう。

女性が気を付けたいのは骨粗しょう症です。骨強度が低下し骨が脆くなる疾患ですが、閉経を迎えると、女性ホルモン減少の影響で、罹患率が一気に高まります。50歳を迎えたらぜひ医療機関で骨密度を測定してください。骨粗しょう症にはカルシトニン、活性型ビタミンD3、SERM、PTHなど効果の高い薬剤がさまざまあり、特に2016年に承認されたゾレドロン酸(ビスホスホネート)は、年1回の投与で済み利便性も実現しました。



日本脊椎脊髄病学会 理事長
山口大学整形外科教授
田口 敏彦

たくちとしひこ/山口大学大学院医学系研究科、整形外科教授。日本脊椎脊髄病学会理事長。医学博士。1980年山口大学医学部卒業。専門は脊椎外科、神経再生医学。2017年4月まで山口大学医学部付属病院院長として、高度救命救急センターや災害医療チーム(DMAT)の活動拠点機能強化などに取り組み、地域医療の発展に尽力。

Toshihiko Taguchi

日常生活ではカルシウムを摂る、日光浴で体内のビタミンDを増やす、ウォーキングやスクワットで骨に負荷をかける活性化などが推奨されます。

低侵襲化が進む 運動器疾患の手術

運動器疾患で患者さんを悩ませるのは腰痛の「痛み」です。痛みで動かなければ筋力や骨の強度が低下し、体重を支えきれず、さらに痛みが増し悪化します。痛みや違和感が3週間以上続いたら、整形外科を受診すること。腰痛の8割は原因不明の「非特異性腰痛」という説が巷間に流布していますが、我々専門医が丁寧に診断すれば、脊椎脊髄の器質的疾患のほとんどは特定できます。早期に適切な治療を受ければ、生活の質を損なうことはありません。

腰部脊柱管狭窄症の保存療法では、鎮痛剤の種類と適応が増えました。非ステロイド性消炎鎮痛剤(NSAIDs)やアセトアミノフェン、血流を改善するプロスタグランディンE製剤。痛みの物質が過剰放出される神経障害性疼痛にはプレガバリン、非器質的な痛みには、抗うつ剤(SNRI)のデロキサセチンを用いるケースもみられます。

同時に理学療法士によるリハビリ体操指導も、疼痛緩和と心身両面の改善に有効です。さらに手術の低侵襲化が進んでいます。椎体骨折には、つぶれた椎体をバルーンで形成し、医療用セメントを充填するBKPがあります。

腰部脊柱管狭窄症では、椎弓の一部を削り、神経を圧迫する黄色靭帯や骨棘を切除する「椎弓切除術」が以前は主流でしたが、これを内視鏡下や顕微鏡下で行う医療機関が増えてきました。痛みも出血も少なく済みます。

狭窄と神経圧迫の原因が、脊椎すべり症や側湾症であれば脊椎の再建術を実施します。チタン製のネジと、ネジを支えるロッドで固定しますが、筋肉を大きく切開することなく、内視鏡下や顕微鏡下で行えるようになりました。

進化する脊椎脊髄病疾患の医療は、高齢化社会を豊かに、積極的に過ごすためのものとなります。健全なADL(日常生活動作)を守るために、納得のいく治療を選択してください。

北海道 さっぽろ脊椎外科クリニック

理事長・院長 山田 恵二郎
日本整形外科学会認定 整形外科専門医

手術実績 (2017年1月~12月)

頸椎手術	33件
腰椎手術	287件
その他	57件
総手術件数	377件

〒065-0016 札幌市東区北16条東16-1-13北愛メディカルビル1F
TEL.011-785-1154(代) http://sapporo-spine.com

宮城県 特定医療法人 白嶺会
仙台整形外科病院

院長 佐藤 哲朗
【日本整形外科学会認定 整形外科専門医】

副院長 兼 脊椎脊髄内視鏡手術センター長
中川 智刀
【日本整形外科学会認定 整形外科専門医】

手術実績 (2017年1月~12月)

● 脊椎脊髄手術 414件 うち内視鏡下手術 341件(頸椎 20件、腰椎 321件)

〒984-0038 宮城県仙台市若林区伊在3-5-3
TEL.022-288-8900 http://www.sendaiseikei.or.jp/

茨城県 医療法人 この会
嶋崎病院
SHIMAZAKI HOSPITAL

院長 嶋崎 直哉
日本整形外科学会認定 整形外科専門医

手術実績 (2017年1月~12月)

人工関節置換術……………197件
(膝 158件/股 38件/肩 1件)

脊椎脊髄手術……………101件

〒317-0076 茨城県日立市会瀬町3-23-1
TEL.0294-36-7070 http://www.shimazaki-hospital.com/

山梨県 医療法人 小宮山会
貢川整形外科病院

脊椎外科・人工関節の症例数に富んだ病院
患者様と共に全力でチーム医療にあたります

理事長 小宮山 清洋 院長 池上 仁志
日本整形外科学会認定 整形外科専門医

症例数に富んだ整形外科の専門医が集結し、手術治療から術後のリハビリテーションまでを行う専門性の高い脊椎外科・人工関節の病院です。手術室は先進の画像・モニタリングシステムを導入、リハビリセンターでは患者様の状態やニーズに考慮した個別のプログラムを作成し早期社会復帰をサポートします。

● 常勤医師10名在籍

手術実績 (2017年1月~12月)

脊柱管狭窄症	221件
椎間板ヘルニア	33件
人工関節手術	176件
その他	469件
総手術件数	899件

〒400-0066 山梨県甲府市新田町10-26
TEL.055-228-6381 http://www.kugawaseikeigeka.com

東京都 医療法人社団 苑田会
苑田第三病院
東京脊椎脊髄病センター

センター長 星野 雅洋
日本整形外科学会認定 整形外科専門医
日本リハビリテーション医学会認定
リハビリテーション科専門医

年間手術件数は490件(2017年1月~12月)です。なかでも腰部脊柱管狭窄症に対する手術を数多く手がけ、腰椎すべり症などの低侵襲の腰椎固定術も実施しています。さらに、骨粗鬆症による圧迫骨折には椎体形成術(BKP)や椎間板の変性が進んだために背中が曲がる「老人性腰まがり」を治療する手術も行い、2017年11月に腰痛がリハビリも開設いたしました。

手術実績 (2017年1月~12月)

脊柱管狭窄症	119件
椎間板ヘルニア	28件
脊椎側弯症その他	343件
年間手術件数	490件

【診療時間】 月曜日~土曜日 午前9:00~11:30
【休診日】 日曜日・祝祭日

〒121-0807 東京都足立区伊興本町2-5-10
TEL.03-5837-5111(代) http://www.sekitsu.net/

東京都 公益社団法人 東京都教職員互助会
三楽病院
三楽脊椎脊髄センター

柔軟でスピードのある
人間味のある温かい医療を提供します

脊椎脊髄センター長 佐野 茂夫
日本整形外科学会認定 整形外科専門医

高度な技術を駆使して難症例を手術できる有数の施設です。もっとも特徴的なのは脊椎インストゥルメンテーションによる矯正手術で、高難度の椎体骨切り術を加え、中高年の高度脊柱変形疾患に対し、良好な成績をあげています。骨粗鬆症性椎体骨折にはバルーン後弯形成術(BKP)、通常の狭窄症や椎間板ヘルニアには低侵襲手術など。先進の技術で難症例を治療しています。

手術実績 (2017年1月~12月)

脊柱管狭窄症(変形を伴うものを含む)	227件
椎間板ヘルニア	35件
脊柱変形(骨粗鬆症性椎体骨折を含む)	176件
総手術件数	478件

【受付時間】 8:30~11:00 / 13:00~15:00(月・木のみ)
(第1・3・5土曜日は外来休診)

〒101-8326 東京都千代田区神田駿河台2-5
TEL.03-3292-3981 http://www.sanraku.or.jp